

# 南日本新聞（令和四年 九月二十二日）

6年生児童の作品が紹介されました



祖父は水道屋さん

下水流小6年

私の祖父は出水市で水道屋さんとして、30年以上も現役でがんばっている。今年の夏休み期間中、学校に備え付けてある水道のメーターの交かんをしたそうだ。メーターが

古くなると正確な使用量を測れなくなるため、8年に1回交かんするように法律で決まっていると、教えてくれた。

今年は学校以外にも150件くらい交かんしたそうだ。これでもまだ少ない方だという。暑い中、こんな作業をする祖父たちはすごいと感じた。

水は私たちが生きていくために欠かせない。だから、突然使えなくなると困るので、地元の水道屋さんたちで当番を決め、きん急時に対応できるようにしている。

祖父が当番の時、夜11時過ぎに電話がかかってきて、かけつけて修理をしたこともあったそうだ。安心して生活できるようにがんばる祖父をほこりに思う。

おじいちゃん、ありがとう。  
（出水市）

